

宮川

まちづくり協議会だより 1月号

令和2年12月31日現在
【世帯数】 249戸
【人口】 男：327名
女：354名
合計：681名

発行日：令和3年01月16日

発行：宮川まちづくり協議会

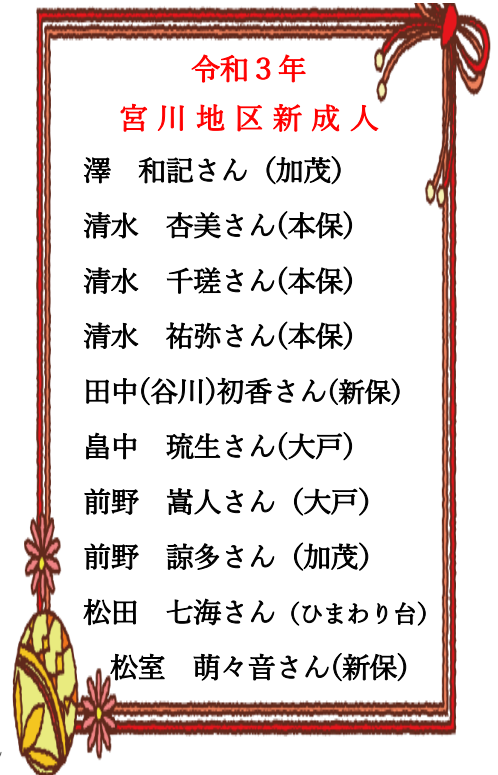




今年度新成人となる、旧宮川小学校卒業生は、10人。コロナ禍や大雪の影響もありましたが、この日は5人の宮川っ子が揃いました。今年度は早い段階から、新型コロナ対策として例年の餅つきはせず、参加者も少なくした上であばん亭で会食する形を検討していました。しかし直前に小浜市内において新型コロナウイルス感染者が出たことを受け、開催そのものが危ぶまれる事態に。しかし、「地区として宮川っ子をお祝いしてあげたい!」という主催者側の思いが勝り、「飲食なしの懇談のみ」にして開催しました。美味しいあばん亭のお料理はバックに詰めてもらって持ち帰りました。



前列左から高鳥万喜子先生、清水杏美さん、清水千瑛さん、前野嵩人さん、前野諒多さん、畠中琉生さん



宮川地区、ばんざ〜い!



記念品は、小学校の集合写真が転写されたLEDキャンドルとミニバック(城口幸子先生、作)。



1・2年生時の担任だった高鳥先生からお祝いの言葉。



新年のあいさつ1

新年明けましておめでとうございます。宮川地区の皆様におかれましては、令和三年度の輝かしい新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルスが猛威を振るい、一旦は収束しかけたように見えました。が再び感染が拡大し、現在高い水準となっております。

宮川地区の活動も大きく影響を受け、ほとんどの行事が開催できなかつたことを残念に思います。そのような中でも、屋外での環境美化活動と飲食を伴わない新成人のつどいを開催することができました。

新成人のつどいでは、新成人や恩師から「地区の方から提供してもらった野菜を使った学校給食が美味しかった。」「農業体験が楽しかった。」などの話を聞き、地域の方たちとの関わり大切さを改めて感じました。

コロナウイルスが一日でも早く収束し、元の生活に戻り、以前のような地区活動ができますとともに、皆様にとりましてご健康で幸多き良き年となりますようご祈念いたします。新年の挨拶といたします。

宮川地区区長会長

前野 伸吉





←これは、新成人たちが高鳥先生に担任して頂いた時に、絵本作家エリックカールのような貼り絵を作ろうと取り組んだ作品なのだそうです。みんなで宇宙旅行へ行っている微笑ましい絵ですね。

吉村：みなさん、新成人おめでとうございます。さて、宮川地区から県外に出てみてどうですか？

畠中：宮川というか、小浜には若者にとっての娯楽がなく、小さなころから「何もないな」と思っていました。都会での一人暮らしは気楽で、好きなことができるので面白いですが、自分が都会に出てから親のありがたみが本当にわかりました。

前野諒：僕は都会がそこまで好きでなく、田舎の方が好きなんですよね。宮川は本当に自然が豊かなところだと思います。

清水千：そう、私は今愛知県に住んでいますが、身の回りの自然は人工的なものが多いです。空気が美味しくなく、冬になると雪あそびしたいなあと思います（笑）

清水杏：私は、京都で一人暮らしを始めてすぐはすごくホームシックになりました。今はましになりましたが、それでも長期休暇には知っている人がいる宮川に早く帰りたいなあと思います。

前野嵩：僕が大学の友人に地元を紹介すると

きは「緑が多くて自然が豊かで、心が安らぐ場所」という風に話します。

吉村：みなさんの通った宮川小学校はH30年度で閉校しましたが、小学生の頃の思い出は何かありますか？

清水千：私は当時習い事で地区外の友達とよく交流していたので、なおさら宮川は何もないとこたなあと思っていました(笑)けれど、それを特にどうとは思いませんでした。小学生の頃は学校行事ごとに地区のおじいさんおばあさんたちにすごくお世話になりました。

畠中：本当にお世話になりました。でも、小学校の頃はそんな環境を普通だと思っていました。中学校へ通うようになって、あれ？これは普通じゃないのか？と気づきましたね。

高鳥先生：宮川小学校は地場産給食への取り組みの先駆けだったと思いますよ。中川さんのハウスにも何度もお邪魔させてもらったし、授業をしても校舎中に給食の匂いが漂ってきて、ああ、もうすぐ給食だなあと待ち遠しかったです。今では他でも普通の自校式給食だったので、野菜の切り方一つとって

も丁寧で、白米も本当に美味しかったです。

清水杏：私は給食の調理員さんに、よく話しかけていました！

吉村：みなさんの中で、将来宮川地区に帰ってこうと考えている方はいますか？

清水千：私はいまのところそう考えていません。小さなころからおばあちゃんから帰っておいでと言われていたので、自然とそう思うようになりました。特に重荷とは思っていません。現在自分が今学んでいる分野は小浜市では足りていない分野なので需要はあると思っていますので、うまく自分の能力を生かせる仕事をつくりたいと考えています。

清水杏：私は特にそういうふうに言われてこなかったけれど、可能なら帰ってこようかなと思っています。都会は賃料や生活費などの固定費がすごくかかりますが、田舎は住むところもあるし、生活費がかかりません。収入と支出のトータルで考えると、田舎の方が住みやすいと思います。

吉村：同じことを昨年の新成人の方もお話し
→次のページへつづく

新年のあいさつ②

西暦2021年、令和三年、明けましておめでとうございます。

昨年コロナ禍の中、地区の主要な行事を中止にせざるを得ませんでした。地区の皆さまにはご理解とご協力をいただきありがとうございました。

そうした中でも昨年は、

① 五月『わかさ宮川の歴史 追補版』を「宮川の歴史を伝える会」の皆さまの長年のご努力により発刊することができました。感謝致します。各種助成金事業に応募し、コミュニティ活動拠点整備や観光マップ作成、備品購入などを進めることができました。

② 宮川地区の今後のあり方をお示しすべく、「長期総合計画改訂作業」は、昨年に引き続き進められており、四月発刊を目指し取りまとめの最終段階となっております。

④ 旧小学校の活用として、新たに「子ども図書と歴史アーカイブの館づくり」が三月完成を目指し進行中です。

等々の事業を実施することができました。今年、「宮川長期総合計画(改訂版)」に基づく活動のスタートの年となります。

ウイズ・コロナの中にはなりますが、皆様のご理解とご協力を得ながら、今できることを進めてまいりますのでよろしくお願ひいたします。

結びになりますが、地区民の益々のご健勝とご多幸を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

宮川まちづくり協議会 会長 澤田 康夫



やっていました。さて、新型コロナウイルスの感染が拡大するにつれて、最近では都会と田舎との比較がよくされるようになりましたが、そのあたりはどう感じていますか？

前野諒：僕の住んでいるところは、そんなにコロナに対して過敏になっていないです。むしろこっちに帰ってきてからの方が、みなさん神経質になっていると感じます。

島中：僕の住んでいる大阪も、特に感じません。やはり混みあった電車に乗らないと生活できないので、これではコロナに感染しても仕方ないと思いますし、みんなウィズ・コロナという認識ができています。小浜の方が、そういう意味ではすごいですね。

吉村：本当にそうですね。今回のコロナ禍によって、田舎のいい面と悪い面が両方見えた気がします。コロナで怖いのは「ウイルス」ではなく「人の目」だということを私も感じています。そのような中、宮川地区では役員のみなさんの「宮川の子どもたちを地区として祝ってあげたい」という思いが揺るがなかったで、例年とはだいぶ形を変えましたが、できる範囲でこうやって開催することを決めました。このことについてはどう感じましたか？

清水杏：嬉しかったです。地区の方が場をセッティングしてくれるのでこうやってみんな

新成人のつどいが終わった後、旧宮川小学校の中を見させてもらいました。久しぶりの教室や昔の音楽の教科書などを見て、小学校時代の出来事を思い出し、懐かしくなりました。 前野嵩人

小浜市成人式にて。この日は前日参加できなかった田中さんと松室さんも出席し、7名の宮川っ子が揃いました。私服だった前日とは違い、みなさんととても凛々しいですね。



や恩師の方にも会うことが出来ます。自分たちで集めるのはなかなか大変なので、きっかけを作っていただけるのは有難いです。

清水千：でも、私は餅つきをしたかった～（笑）今年は家でも餅つきをしなかったの。なかなか杵と臼を使っての餅つきはできないので楽しみでした。

吉村：そうなんですね～！来年の新成人と一緒に2年分つきますか（笑）？さて、それは最後になりますが、みなさんは将来宮川地区がどうなっていてほしいと思いますか？

前野嵩：昔からの文化や伝統を守りつつ、コンビニのようなものや飲食店のようなものが増えると、もっと宮川が活気づくと思います。

清水杏：カフェ！こうやってみんなでしゃべることが出来るカフェがあるといいな。

前野諒：宮川地区にはひまわりなどを見に多くの観光客が来ていると思いますが、その人たちがお金を使うことができるお店ができる

といいと思いますね。

吉村：なるほど！若者にとったら、宮川の自然の豊かさやのどかさは魅力で大切だということは重々分かった上で、「あと何か」があるといいですね。今宮川地区にはあばん亭やアイザワ商店、昨年オープンした calm など、ちょっとずつ自然と共存した楽しいお店が出てきています。ただ、確かに男性向けの飲食店はないですね～。これはもう、みなさんが将来宮川地区にUターンした後に、自分で開業するか、副業で土日限定居酒屋を開くしかないですね！（笑）

おせ話を
なりました！
おめでとう



ほかにも、宮川地区でこんなことがありました

12月5日(土)
宮川保育園
生活発表会



今年新型コロナウイルス対策として来賓も招かず、人数制限をした上での発表会でしたが、子どもたちは元気いっぱい、可愛いお遊戯を見せてくれました。

12月11日(金)
年末にかけての交通安全立哨



ありがとう
ございました

交通安全協会宮川班のみなさん、寒い早朝から、ありがとうございました。

12月18日(金)
新しい除雪機、大活躍!



今年度コミュニティ(宝くじ)助成で買った除雪機がさっそく活躍!
館長が通学路の歩道の雪かきをしてくれました。やはり馬力が違いますね。

12月26日(土)
いずみの会 生け花教室



コロナ禍の収束を祈って先生が付けてくださった令和3年のお題は「実」でした。南天と五葉松、ピンポン菊、千両を花材に用いました。



◀漆崎先生の作品

宮川公民館の
お正月準備



地区の方々のおかげで公民館は無事にお正月を迎えることができました。

13 福井新聞 2021年(令和3年)1月4日(月曜日)

住民ら交流の拠点に

小浜・旧宮川小の活用進む

住民が集える場所として改築が進む図書室

取材後記
使い勝手は上々

「交流の機会が湧き、子どもたちの出入りがなくなるはず」と期待しているが、利用者の評判は上々。子どもが待つベンチも、大人も待てるベンチも、利用者の評判は上々。子どもが待つベンチも、大人も待てるベンチも、利用者の評判は上々。

小浜市宮川地区で、開設になった旧宮川小学校は、児童交流の拠点として活用が進んでいる。旧宮川小学校は、児童交流の拠点として活用が進んでいる。旧宮川小学校は、児童交流の拠点として活用が進んでいる。

一月十七日付の中日新聞に、旧宮川小学校の利活用について、大きく特集が掲載されました!(掲載許可取得済)

記事をご覧になりたい方は、公民館まで見に来てください。

今年もよろしく
お願ひします

Information

お知らせ



どなたでも楽しめる!

健康体操 教室

2/28(日)

10:00~11:30

場 所
持ち物
参加費
講師

旧宮川小学校体育館

タオル・お茶・上履き

無 料

いわさわ けいこ
岩澤 恵子先生

(STUDIO VIGOR 主催、
日本スポーツ協会
スポーツプログラマー)

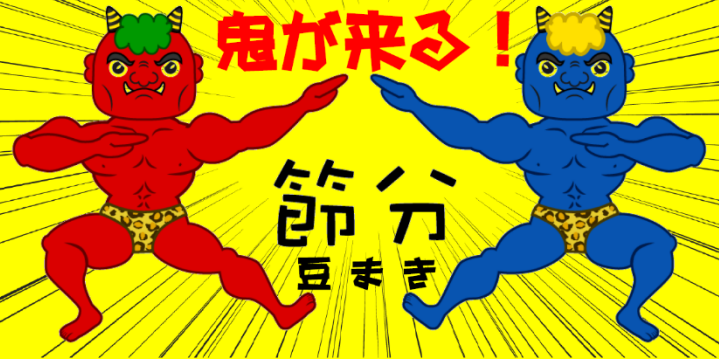
STUDIO VIGOR



昨年大好評(大号泣)!
青年クラブ主催

申込料 300 円
(衣装代に充てます)

あなたのお家に 鬼が来る!



宮川の子どもたちに日本の伝統文化に触れ、「目に見えないものへの恐れ」を感じてほしい。
そこで節分の日に青年倶楽部メンバーが鬼の姿に扮して、申し込みのあった地区内保育園児
の家を回ります。泣きながら思いきり豆をまいて鬼を払い、福を呼び込みましょう!

鬼の来る日 2月3日(水) (主催者側の都合で3日になります)
詳しくは、保育園から持ち帰るチラシをご覧ください。

2月の行事予定

- 14(日) チーム de かるた 大会日
(9:00~、旧宮川小学校)
- 16(火) すこやかクラブ定例日 (10:00~、公民館)
- 27(土) オイケモノ神事 (10:00~、加茂神社)

2月の
休館日

- 1(月)、8(月)、11(木・祝)、
21(第3日曜)、
15(月)、22(月)、23(火・祝)

参加者募集

大笑いながら、ピンポンしてます!

みやがわピンポンクラブ

毎週火曜日 13:15~

場所: 宮川公民館

対象: 60歳以上

持ち物: ラケット、上靴

参加費: 無料

お申し込みは公民館まで☎

※ソフトバレークラブも、毎週金曜
日 20:00~旧宮川小学校体育館で
活動中! 随時参加者募集中です。一
度見学にきてください。

編集後記

「小浜市で新型コロナウイルス感染者が出たのに、新成人のつどいを開催しても大丈夫!？」みなさん直接口には出さないけれど、開催予定日数日前から言葉にならない言葉をひしひしと感じていました。けれど、主催者側は「やはり一生に一度しかないこと。取りやめるのではなく、どうやったら開催してあげられるかを考えよう」と、例年とはかなり形を変えて開催を決定しました。その結果は、「してよかった!」それにつきます。最初は申し訳なさそうに会場に入ってきた新成人のみなさんが、次第に無邪気な笑顔を見せてくれたのが嬉しかったです。保護者のみなさんからも後日お礼のメッセージをいただいたのですが、やはり親として、子どもたちの喜ぶ姿を見ることができたことは嬉しく、また、自分の子どもたちが地区の方々から祝福されたことがありがたかったそうです。こういう機会がある地区は宮川地区だけ。まさに、宮川イズムです。(Y)